

よくわかる
パースの基本と
実践テクニック

大脇賢次 著

彰国社

はじめに	4
第1章 透視図の基本	5
1 透視図とはなんだろう？	6
2 消点について	8
3 足線法、D点法、M点法について	9
4 透視図、6つの原理	10
5 実長をどこでとる	12
6 分割のテクニック	14
7 増殖のテクニック	16
8 円の描き方	18
9 透視図基本用語	19
第2章 まず足線法をマスターしよう	21
1 足線法の考え方	22
2 1消点で描く——C Vを消点として描く	28
2-a ソファを1消点で描く	29
2-b 居間を1消点で描く	34
2-c 住宅のファサードを1消点で描く	42
3 2消点で描く	50
3-a 正方形の窓のある住宅を2消点で描く	51
3-b ビロティーのある住宅を2消点で描く	59
3-c ダイニングキッチンを2消点で描く	68
3-d 研修所を片方の消点で描く	82
3-e 住宅を〔2消点＋分割〕で描く	88
3-f 絵画のあるロビーを2消点の応用で描く	94
4 3消点で描く	102
4-a 直方体を3消点で描く（見下げ）	103
4-b 直方体を3消点で描く（見上げ）	106
第3章 D点とC Vを使ってD点法に挑戦	109
1 D点法の考え方	110
2 D点法で描く	116
2-a 立体のある空間をD点法で描く	116
2-b コンクリート造住宅をD点法で描く	122
2-c 立体のある空間をD点法の〔簡略図法〕で描く	128
2-d 和室をD点法の〔簡略図法〕で描く	132
第4章 M Lで測るM点法	141
1 M点法の考え方	142
2 M点法で描く	147
2-a 立体をM点法で描く	147
2-b オフィスビルをM点法で描く	154
2-c オフィスビルをM点法の〔2消点簡略図法〕で描く	164
2-d 立体をM点法の〔3消点簡略図法〕で描く	170

はじめに

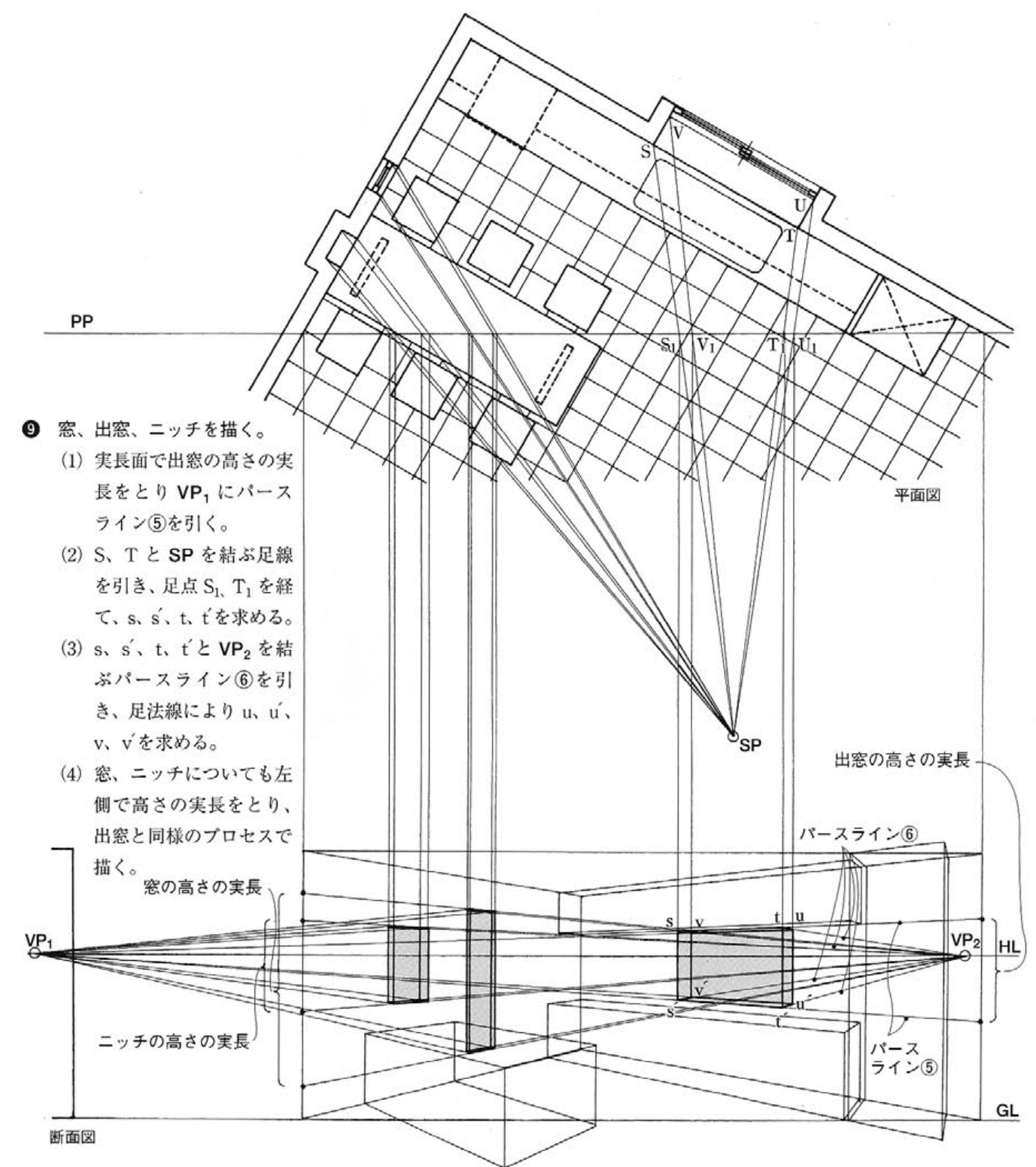
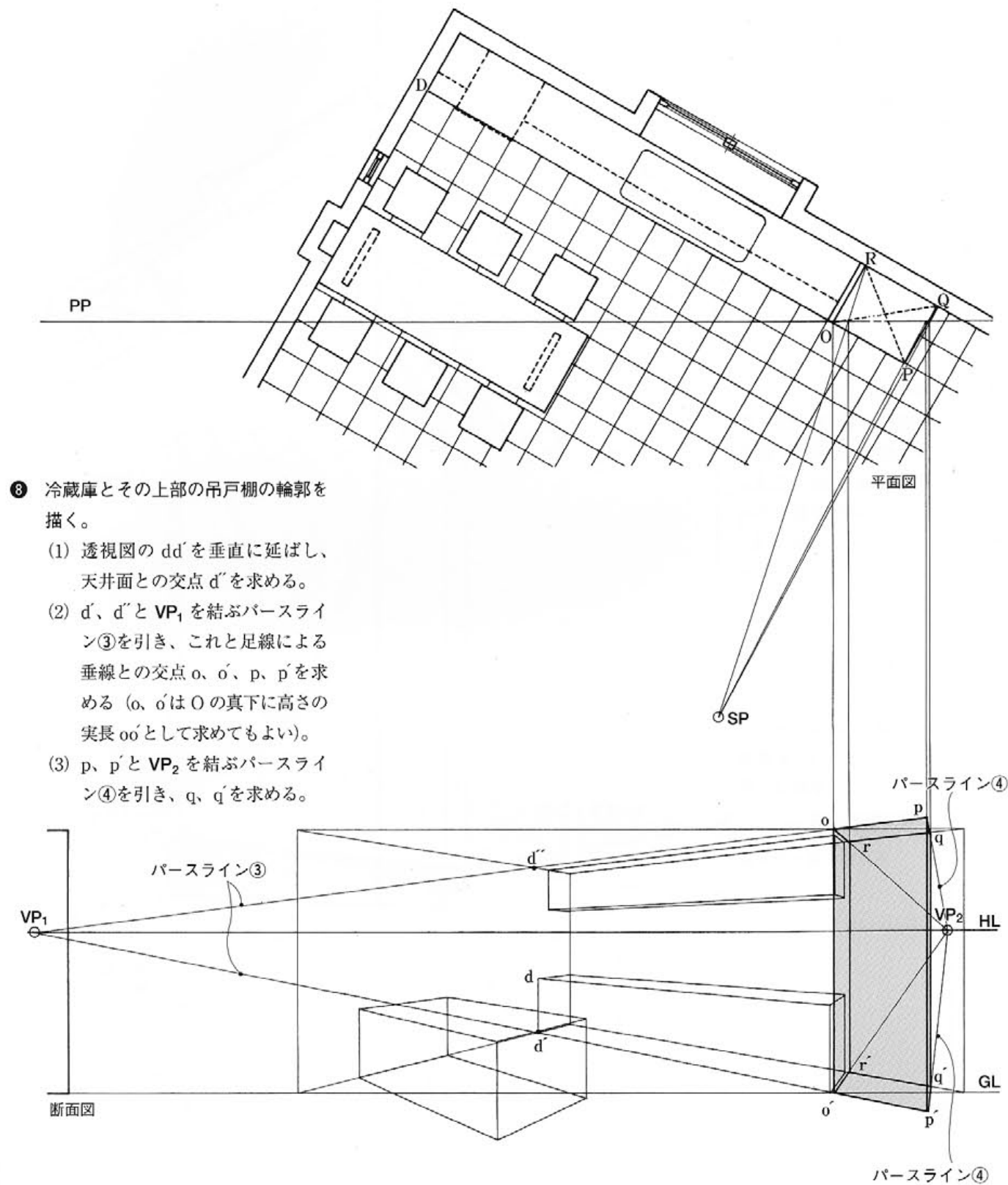
この本は、パースペクティブ(透視図)の基本な考え方とテクニックおよびそれらをふまえた上での実践テクニックについて書かれたものである。対象者は、初めてパースペクティブ(一般に略してパースという)を学ぼうとする者、とくに建築、インテリアの学生であるが、作図プロセスをできるだけ多く載せることで、初学者にわかりやすいものとなっている。また自習用として初めてパースを勉強しようとする者に対しても、できるだけわかりやすく、なおかつ実践的に修得できるよう、この本は構成されている。

パースの図法には足線法、D点法、M点法などがあるが、代表的なものは足線法であり、まずこれをマスターすることが大切で、そのためにこの本でもかなりの紙数をさいている。足線法を理解できれば、パースは描けるようになる。一方、D点法、M点法は簡略図法としてよく用いられ、これらをマスターすると実践テクニックとして役立つ上に、作業時間も短縮できる。その意味で、D点法の簡略図法とM点法の簡略図法も理解できるようになってほしい。

私自身、設計の実務者として仕事をはじめたころ、計画中の建築のパースを設計事務所の所長が定規を用いて短時間で素早く描くのを見て、私もこのようにうまく描けるようになりたいと望んだことが、パースに対する興味の原点だと思う。さらに、イタリアで芸術的なパースを見て感動したり、設計事務所の所長となってからは施主に計画中の住宅のパースを見せて喜ばれたりなど、建築設計のなかでパースについてのいろいろな経験をしてきた。

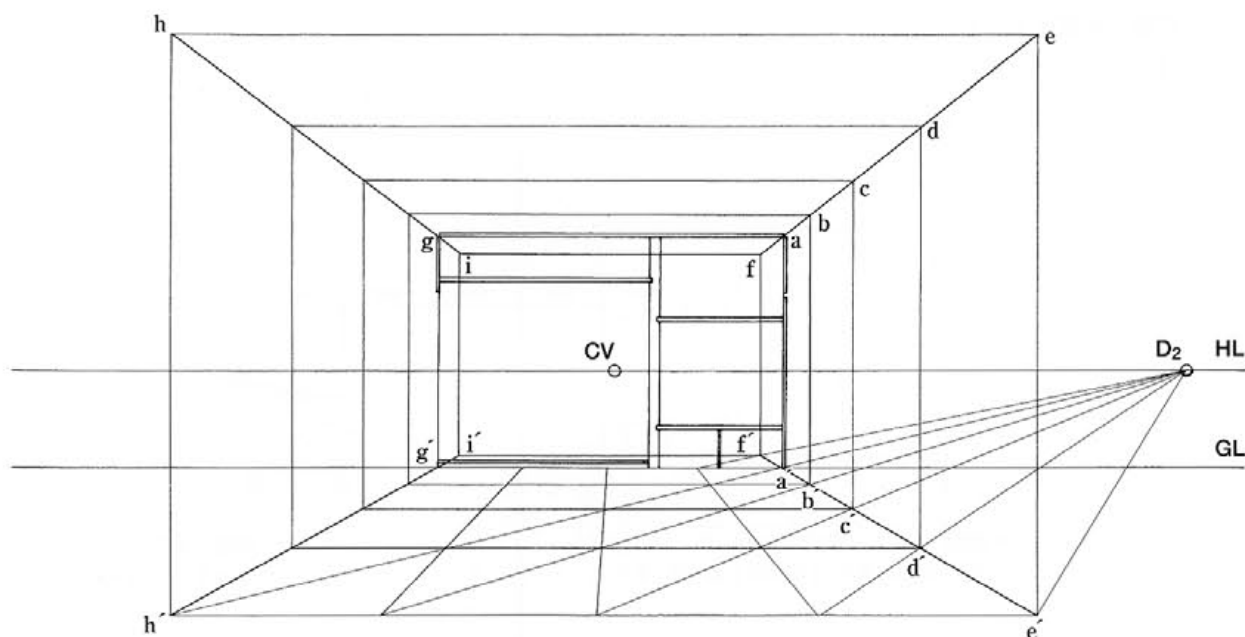
私の考えでは、建築、インテリアの設計者が自分の設計した建築、インテリアのパースも描けないようでは表現能力に欠けるといわざるをえない。パースを描くことは、空間の把握、造形やデザイン感覚の育成にもなり、他の人に対するプレゼンテーションにも非常に有効である。また自分で設計したものや思い描いたものを立体的な形に表現する楽しさもある。そのためには学生のときにパースに対する基本的な理解やトレーニングをすることが必要であり、この本もそのために少しでも役に立てば幸いである。

第1章 透視図の基本



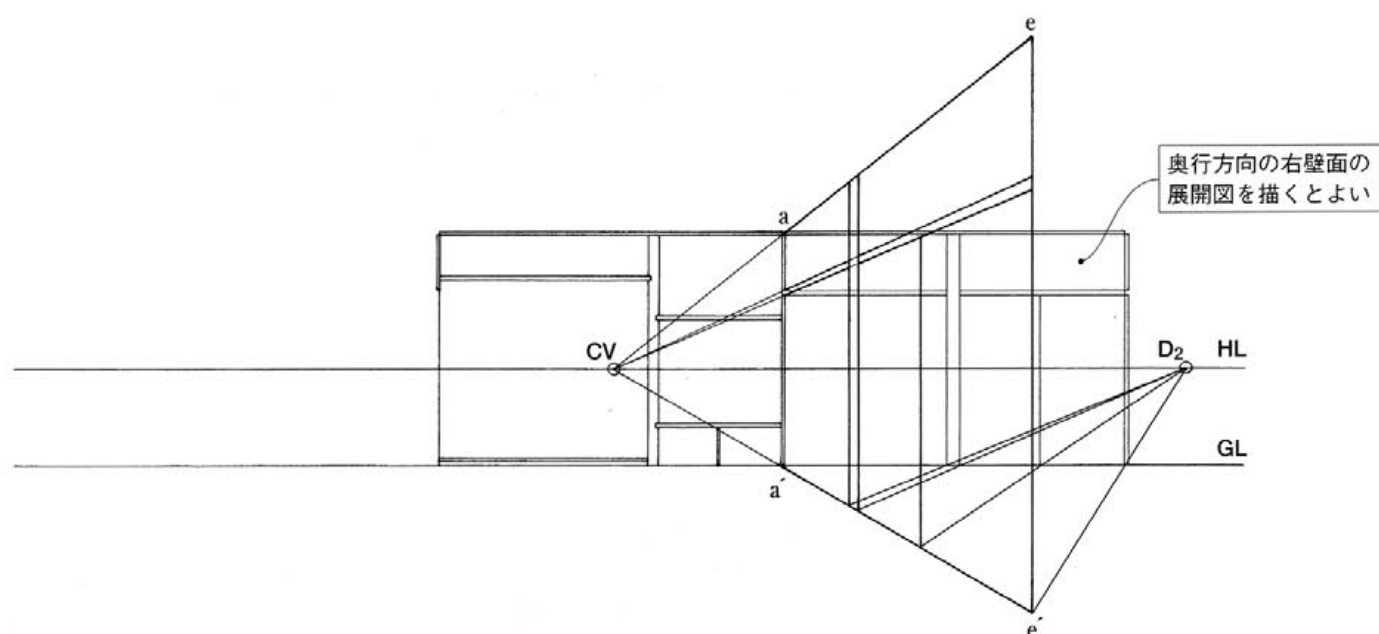
⑤ 和室の奥行を描く。

$a' \sim f'$ より水平、垂直に線を引き、 g' とCVを結ぶパースラインおよび a とCVを結ぶパースラインとの交点を取り、和室の奥行を描く。



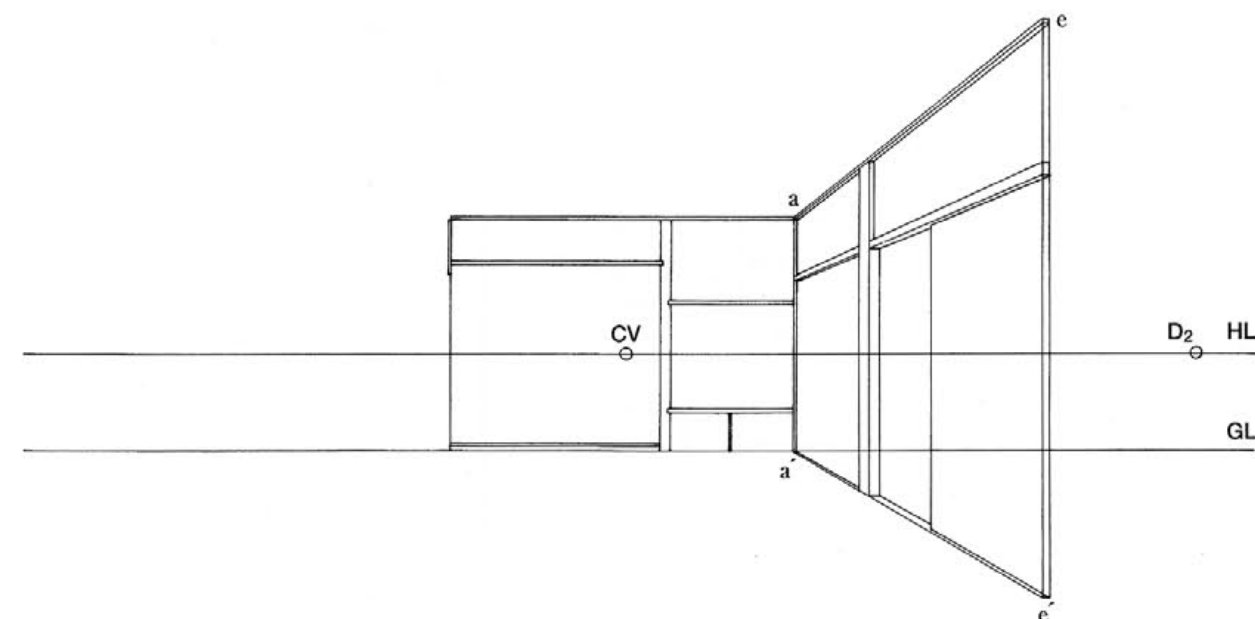
⑥ 奥行方向の右壁面を描く。

GL上に奥行方向の寸法をとり、④と同様の作図プロセスで奥行方向の右壁面を描く。この場合 aa' の右側にその壁面の展開図を描くと、作図上より理解しやすくなる。



⑦ 奥行方向の右壁面の細部を描く。

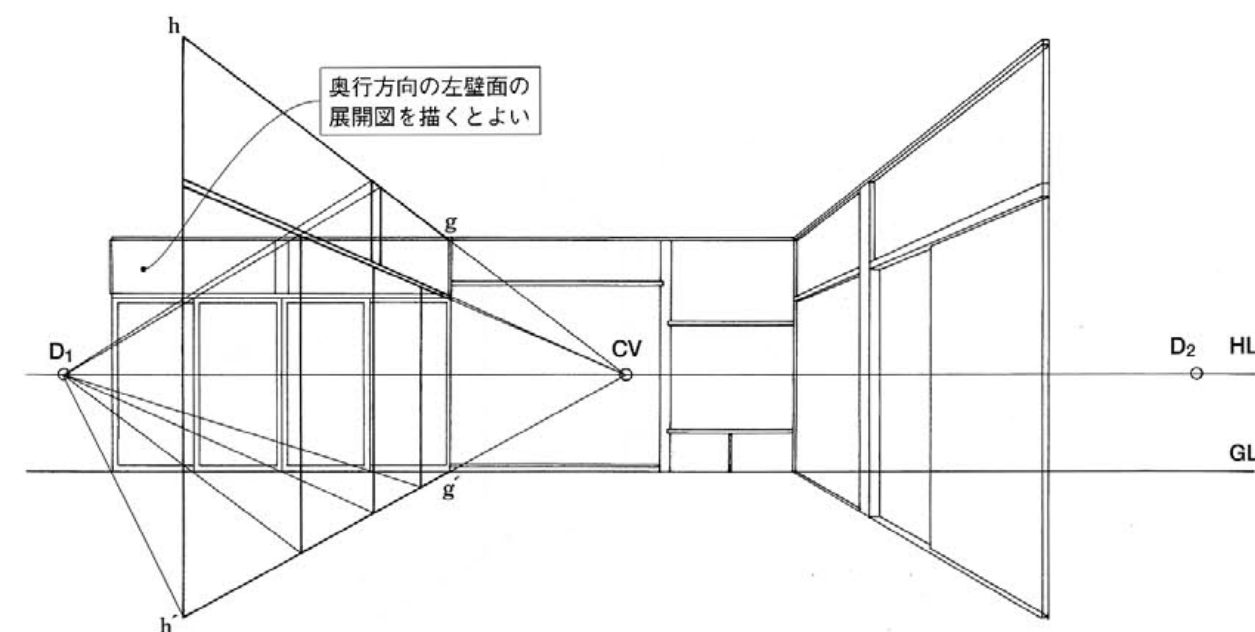
和室の柱、鴨居、敷居、廻り縁などの細部を描く。細部についてはD点法またはデッサンのいずれでもよいが、和室の細部についての理解が不可欠である。



⑧ 奥行方向の左壁面を描く。

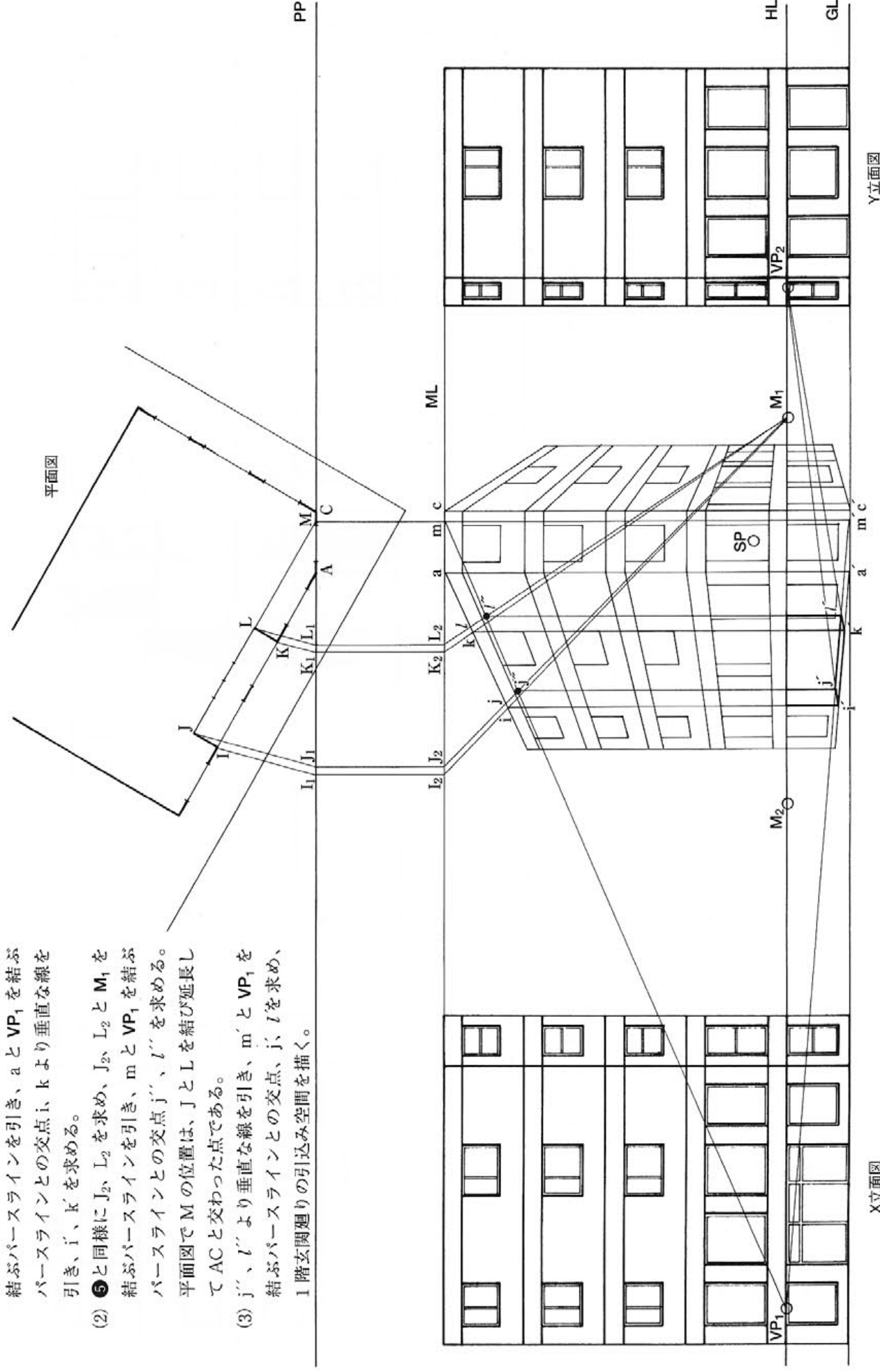
$CVD_2 = CVD_1$ となるように HL 上に D_1 をとり、⑥と同様に和室の奥行方向の左壁面を描く。ただし⑤で和室の床面に奥行900のグリッドが

引かれているので、下図のように D_1 を求めなくても作図は可能である。この場合も gg' の左側にその壁面の展開図を描くと作図上より理解しやすくなる。



7 1階玄関廻りの引込み空間を描く。

- (1) ⑤と同様に I_2 , K_2 を求め、 I_2 , K_2 と M_1 を結ぶパースラインを引き、 a と VP_1 を結ぶパースラインとの交点 i , k より垂直な線を引き、 i' , k' を求める。
- (2) ⑤と同様に J_2 , L_2 を求め、 J_2 , L_2 と M_1 を結ぶパースラインを引き、 m と VP_1 を結ぶパースラインとの交点 j'' , l'' を求める。
- 平面図で M の位置は、 J と L を結び延長して AC と交った点である。
- (3) j'' , l'' より垂直な線を引き、 m' と VP_1 を結ぶパースラインとの交点、 j , l を求め、1階玄関廻りの引込み空間を描く。



8 道路を描く。

- (1) 平面図の $N \sim Q$ より垂直な線を下ろし、 GL 上に $n \sim q$ をとる。
- (2) n , o と VP_1 を結ぶパースラインを引き、 q , VP_2 を結ぶパースラインを引いて道路を描く。

